

1 大門通り

真間山弘法寺へと続く道で、かつては参道として利用されていました。沿道には、地元ならではの飲み屋さんやジャズのお店など実に様々なお店が並んでいます。趣のある民家も多く懐かしさを感じさせてくれる通りです。また、沿道の民家の壁には市川の書家による万葉の歌が飾られています。



2 真間の継ぎ橋

万葉の昔、真間の入り江の入り口にはたくさんの洲があり、その洲から洲に架けられたのが継ぎ橋だったと考えられています。今は道路の一部になってしまいましたが、万葉の頃は都びとにも知られた橋でした。継ぎ橋は奈良・平安から鎌倉時代前期にかけての歌枕（歌の名所）で多くの有名歌人によって歌に詠まれています。



3 手児奈霊神堂

山部赤人や高橋虫麻呂など万葉歌人によって歌に詠まれた伝説の美女・手児奈を祀る霊神堂。手児奈はあまりの美しさゆえに多くの男から求婚され、自分のために人々が争うのを憂い、真間の入り江に身を投げたと伝えられています。霊神堂の横には真間の入り江の名残を止める池があります。



イベント情報 4月下旬日曜日・春の史蹟まつり
(詳細は歳時記をご覧ください。)

4 亀井院

寛永12(1635)年に弘法寺の貴主の隠居寺として建てられ、当初かめい井坊と称されたお寺。本堂の裏に万葉歌人高橋虫麻呂が歌に詠んだ伝説の美女・手児奈が水を汲んだという「真間の井」があります。このお寺に、北原白秋がその生涯でどん底の時代に二度目の妻江口章子と大正5年5月中旬からひと半月にわたり暮らしていました。



5 弘法寺

行基菩薩ぎょうきや弘法大師こうぼうだいしの建立伝説を持つ古刹。仁王門には運慶作と伝えられる仁王像、弘法大師の真筆と伝えられる額があります。境内には、日蓮上人親刻の大黒天を祀った太刀大黒天神殿、樹齢400年の枝垂れ桜（伏姫桜）、弘法寺古墳（前方後円墳）、真間山古墳（円墳）と呼ばれる古墳もあります。境内は桜や紅葉、椎などの樹木が繁り、東南の広場からは市川の市街が一望に収められます。



6 木内ギャラリー

明治・大正期の官僚・政治家である木内重四郎により、明治45年から大正3年にかけて造られた、近代建築様式として歴史的価値の高い建物。和洋折衷の建物の内洋館部分を再築し「木内ギャラリー」として公開しています。平成16年9月にオープン以来、展示や音楽会が催されており、ギャラリーとしても楽しめます。



住所 ●市川市真間4-11-4 ☎047-371-4916 休館日 ●月曜日休館（祝日の場合は翌日）
開館 ●午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで） 入場料 ●無料（企画展開催中は有料となる場合があります）



7 国府神社

日本武尊やまとたけるのみことがこの地から武蔵国へ向かうとき、コウノトリが飛来して浅瀬を教えたため難なく河川を渡ることができました。そこで尊みことは褒美ほめいにこの台地をコウノトリに与え、このことから「鴻之台つうのたい（国府台）」の地名がおこったといわれています。また、国府神社はこの伝説を裏付けるように、祭神が日本武尊で御神体がコウノトリの嘴くちばしとなっています。



8 市川関所跡

市川は古くから交通の要所でしたが、江戸時代に入ると、市川と小岩の間にあった市川の渡しわたりが定船場となり、番所が置かれました。この番所は後に関所に昇格し、江戸期を通じて往来を厳しく監視していましたが、明治2年に廃止されました。



文化の街かど 回遊マップ

市川・真間地区編

市川・真間地区の歳時記

1月1～3日	初詣	弘法寺・手児奈霊神堂
2月3日	真間山節分会	弘法寺
3月下旬～4月上旬	桜の見頃	須和田公園・桜土手公園 等
4月第1日曜日	人形供養	手児奈霊神堂
4月8日	花まつり	弘法寺
4月下旬 日曜日	春の史蹟まつり	手児奈霊神堂
7月 第3土・日曜日	手児奈ほおずき市	手児奈霊神堂
8月 第1土曜日	市民納涼花火大会	江戸川河川敷
10月上旬～中旬	手児奈祭	手児奈霊神堂
10月下旬	真間大門会商店会まつり	真間大門会商店街
12月31日	おたきあげ	弘法寺
毎月 第1日曜日	手児奈日曜日	手児奈霊神堂 境内



市川・真間の成り立ち

先土器時代・縄文時代

- 市川には20,000年くらい前から人々が住みはじめた。
- 6,000年くらい前から3,000年くらいにかけて、市川北部の台地や段丘に多くの貝塚が造られた。国史跡の姥山貝塚、首谷貝塚、堀之内貝塚を始め大小約60の貝塚が発見されている。市川は全国有数の貝塚密集地。



真間の継橋
(大正～昭和初期)

弥生時代・古墳時代

- 各地に集落ができ、須和田に大集落が出現した。
- 古墳時代には多くの古墳が造られた。弘法寺古墳、法皇塚古墳、明戸古墳といわれる前方後円墳、真間山古墳といわれる円墳が残っている。

飛鳥時代～平安時代

- 大化の改新（645年）後、国府台に下総の国府が置かれ、市川は下総の政治・経済・文化の中心になった。現在の国道14号線はこの時代の官道・古代の東海道。
- 聖武天皇の詔によって国分寺が建てられた。
- 手児奈や継橋が歌に詠まれ、万葉集に収められた。継橋はその後も多くの有名歌人によって歌に詠まれた。
- 石橋山の合戦に敗れ、安房に逃れていた源頼朝が安房を出て国府台で半月ほど陣を張り、兵を集めて鎌倉に入った。



真間山山門
(大正～昭和初期)

鎌倉時代～戦国時代

- 国府台を舞台にして里見氏と北条氏が2度に渡って合戦した。（国府台合戦）

江戸時代

- 利根川の流路変更によって、太日川と呼ばれ渡良瀬川の下流だった現江戸川が利根川の分流になり、江戸川は関東の交通・運輸上の幹線になった。
- 市川の渡しわたりが定船場になり番所が置かれ、のち関所に昇格した。関所は明治2年に廃止になるが、渡しは明治38年江戸川橋（市川橋）ができるまで続いた。
- 総寧寺が関宿から国府台に移転してきた。このとき幕府から広大な寺領を与えられた。
- 幕末、戊辰戦争では市川も戦場となり、多くの民家が焼かれた（市川・船橋戦争）



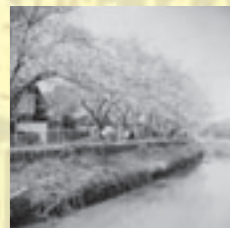
手児奈霊堂
(昭和33年頃)

明治時代～大正時代

- 陸軍教導団が国府台（旧総寧寺領とその周辺地）に移転してきた。その後、野砲兵連隊が駐屯し、太平洋戦争終結まで市川は軍隊の町になった。
- 明治27年に総武鉄道（後の国鉄・JR）が市川～佐倉間、市川～本所間に開通した。
- 大正3年に京成電鉄が本所押上を基点に市川新田（現市川真間）まで開通した。

昭和期～平成

- 昭和9年に市川町、八幡町、国分村、中山町が合併し、市川市が誕生した。後、昭和24年大柏村、30年行徳町、31年南行徳町と合併した。
- 太平洋戦争終結後、国府台にあった軍施設と軍用地の跡には、学校と運動施設が造られ国府台は学園の町、スポーツセンターとなった。



真間川堤
(昭和33年頃)

お問い合わせ先 ●市川市 文化国際部 文化芸術課

☎ ●047-712-8557

URL ●<https://www.city.ichikawa.lg.jp/cul01/index.html>

（文化芸術課のページ）